俳諧新五百題

二

秋目録

立秋　初秋　今朝秋　文月　天川
七夕　星合　七夕雨　貸小袖　盆
盆市　盆月　迎火　迎鐘　魂祭
施餓鬼　墓参　灯籠　高灯籠　送火
摂待　生身魂　踊　衝突入　捨扇
花火　相撲　御射山祭　残暑　初嵐
烁風　稲妻　霧　露　桐一葉
柳散　木槿　萩　朝顔　秋海棠

女郎花 芒 尾花 荻 蘭
藤袴 桔梗 鼠尾草 芭蕉 葛花
真葛 吾亦紅 露草 野菊 曼珠沙花
秋草 草花 稲花 早稲 青瓢
〻風 西風 葉生姜 紫蘇 唐椒
鳩吹 鷹打 虫 蛬 松虫
鈴虫 蜱 竃馬 螽 蜻蛉
螳螂 蓑虫鳴 藻虫鳴 蜩 秋蝉
秌蝶 秋蛍 秋蚊 秋蝿 鮭
鯔 鱸 鰍 落鮎 鰯曳

八月 葉月 八朔 田面日 彼岸
放生會 初月 三日月 待宵 名月
今日月 良夜雨 良夜蝕 十六夜 月見
月 雨月 秋月 月 秋 駒牽
駒迎 初汐 秋日 秋夜 長夜
夜寒 肌寒 朝寒 秋寒 露寒
秌雲 秋山 秋水 野分 秋暮
擣衣 索山子 鳴子 引板 添水
稲 田刈 干稲 落穂 粟
黍 芋 零餘子 柿 熟柿

叅 蔦紅葉 初紅葉 芙蓉 木槿
穂芦 刈萱 雞頭 紫苑 花野
秋野 蕎麦花 蓼花 烏兜 木綿摘
薬掘 木賊刈 鹿 鹿笛 初雁
雁 鴫 鶉 啄木鳥 稲雀
鵙 乙鳥帰 渡鳥 鶺鴒 蛇入穴
新余 新酒
九月 重陽 菊酒 後雛 十日菊
舛市 十三夜 後月 名残月 御遷宮
野分 秋雨 露時雨 秋時雨 露霜

秋霜 紅葉 柿紅葉 草紅葉 蔦
梅嫌 末枯 柚 梨子 木實
栗 椎 茱萸 通艸實 菌
松露 落水 崩簗 網代打 行秋
暮秋 九月尽

冬目録

初冬 十月 神無月 神留主 亥
十夜 達磨忌 大師講 [illegible]命講 御取越
翁忌 恵比須講 神迎 小春 小六月
冬日 冬夜 冬月 初時雨 時雨
夜時雨 松風時雨 初霜 霜 霜夜
初雪 冬雨 木枯 冬ざれ 冬枯
寒 冴 胼 皹 爐開
口切 巨燵 冬構 冬篭 埋火
火桶 火鉢 囲炉裏 榾 炭竈

炭[illegible] 婆 紙衣 蒲團 衾
頭巾 足袋 納豆 山茶花 枇杷花
茶花 帰花 冬柳 冬牡丹 水仙
寒菊 石蕗花 冬芭 枯芭 枯尾花
枯荻 枯菊 枯草 冬草 枯芝
枯蓮 麦蒔 蕎麦刈 大根曳 蕪
干菜 葱 木葉 落葉 紅葉散
冬木立 冬野 枯野 焼野 冬一
冬田 冬川 水鳥 鴨 鴛鴦
鴨 千鳥 [illegible]鳥 木兎 [illegible]鳥

[illegible]鶴 [illegible]雀 冬雁 冬鳥 [illegible]蝿
鯨 河豚 鰒汁 杜父魚 生海鼠
牡蛎 網代守 柴漬 [illegible]引
霜月 冬至 髪置 神楽 子祭
吹革祭 御火焼 空也忌 鉢敲 寒念佛
報恩講 芝居顔見世 雪 雪見 夜[illegible]
吹雪 志巻 霰 霙 氷
氷柱 凍 雪車 [illegible] 冬梅
寒梅 冬椿 鷹 鷹狩 焼鳥
[illegible]艸 [illegible]落艸 鷹艸

師走 川[illegible] 臘八 佛名 事始
入寒 寒雨 寒月 藥喰 乾鮭
年内立春 追儺 柊賣 節季候 姥等
煤掃 餅舂 衣配 年市 年木
年用意 年忘 古暦 春待 来春
行年 年岡見 年籠 歳暮 大年
大晦日 年夜 除夜

田喜菴護物輯

○秋之部

立秋

馬買の小笠に秋のしら川はら哉　白雄

涂ち桶のもまへも秋となりにけり　撲左

秋さ川や火ともしつ門の船なり　士卯

竹よりの秋立や稲葉のはしの家　申甫

杖立てたてをおなく朱なり　三顧

初秋

初秋もしらしら蝶のなく　可都里

ちつ桜の花さらし小萩かな　宮葛

今朝秋

まつ蟬は[illegible]かなの木々の艸から　首二
初秋や萩見て通る家のうへ　叙来
けふの秋や猪も露かふ庵かな　丹霞
蛛の巣にあをさむや今朝の秋　存義
松かけやてらりあらんかさの姥　李川
水うくし鮎のうけもさきの姥　友園
其後もおもしろ人も佗し円の花　東李
桃灯のあくしくや今朝の秋　讃物

文月

草の中に蓮あるや咲て文月　みち彦
あつくともを女名あるへし　千心

文月や母の白髪のうつくしき　瑞馬
文月の小艸あつめし翁かな　菊塢
文月もるて妙法町の御供哉　讃物

天川

天の川田舎の空もうつくしき　乙因
用もなき舟出しけりやその川　弓雄
破ちらくあまそゝぐかかる天の川　乙彦
紅の袖天の川とそ来よ見ゆ　楽水
ちきくとも水はうるやあの川　揮白

七夕

七夕や人々体のむものいくらさ　小柳里
糸[illegible]きえし七日の夜　雀丸

星合

七夕や苦茶の気もく川むかひ　茶静

笹の葉の風のまゝなり星の影　乙二

星合やむかし出てゐる傾城の人　圭之

影もけふかけるや星に麻の穂　一愷

川鱒も星まつる白き苔のうへ　南井

星合や露干捨し鞠の波　菊塢

七夕雨

かゝる夜の尾もふつし星の雨　江戸 雪八

星まつる舞の雨や来ぬ人き　而男

星の雨舟流しけるいは　何丸

貸小袖

星まかして出来れる得かな　宗雨

盆

こくや梅干くさき貸し小袖　巣兆

借る手に出てぬるさん貸小袖　訓江

人之つくる八ツし盆ふく衣　春鴻

わすれてハ二おさへし盆あふき　土朗

草の名も細かけて盆の宵　詠帰

住る草やそこと伸て盆の夜　洞之

盆市

ころもまち人の流るや盆用意　今長

こりて明るさあくし盆供う様　桑手

草市に話も云ふ霰ゆく　雲雄

こころや水川草や盆用意　とし徳

盆月　盆の月人の中にいでゝほらく　澄水

筆とりし硯の家くらし盆の月　みち彦

大足の影もうつるや盆の月　時喜雨

去父入とはの足ハなし盆の月　石芝

迎火　迎火や出旅へむけし月くもる　鳥酔

山の井やつれても又くれぬ家　みち彦

迎火や樹におく精の行をまつ　棹歌

迎へ火や山根をさる草の露　奥政

迎火をちらしし日入や筆の露　秋耳

迎鐘　月さへもあはれやしよ迎の緑　双湖

宇海に行てハ家を忘れしむかし持　欣之

おのれこそハ涙おく萩よ迎ふ緑　護物

魂祭　鬼拾やこの世に果し夢の露　士朗

所まめの皇る衣蓋むつ廿郎花　真頭

竟拾に幅をさし渡る夜明かな　季道

條に盆に浮くらし竟まいりし　松夫

瓢箪も子洲けるや魂祭　琴如

施餓鬼　施餓鬼拾秋ハまつしきものゝ知る　宗居

七夕のこのよきつめの施餓鬼哉　みち彦

筆の蝉施餓鬼に鉢ゆるかな　瞻里

墓参

義のあるはくさぐさ墓の前[illegible]　闌更

墓まゐり[illegible]寺の門　菊雄

まだ見ぬ子何をうけて墓参　楚狂

うき世をさそふ露やその身　紫山

鳴ものに浮世忘れしや墓参　玉光

燈籠

[illegible]川燈籠立家の月かくれ消　呂彦

馬次の[illegible]灯籠かな　芳之

[illegible]の花[illegible]燈籠の火　可磨

数多くも[illegible]川の燈籠かな　碩翁

灯籠かけてあさやぐ[illegible]　一肖

高灯籠

古里や稲葉の末の揚灯籠　蝶夢

露けしや高灯籠の主人　白雄

[illegible]魂の世にもあるなら灯籠　柳几

[illegible]ものの人に照らす揚灯籠　岱朗

月もおもしろや霧の高灯籠　石芝

送火

おくるるや[illegible]末置たる[illegible]　嵐大

送り火の消ゆる[illegible]杉の月　鶴峰

送る火や[illegible]焚捨て　みとし

[illegible]待

[illegible]待[illegible]のほとけ[illegible]　雪雄

[illegible]待の[illegible]尉[illegible]　護物

生身魂

豈志らぬ世数よ気せぬ竟　渋々

漸る翁の伯もそれか生身魂　文貫

手車の見たその月や生身魂　護物

ゐらるゝ犬のなく町越てまゐらく　蕪村

踊

押されよゝ踊の中を通りけり　逞素

呼合てもどる踊のわかれかな　無一

闇もなき中なき世界や盆踊　亀洲

衝突入

出てやる家の月見るいとや涼しみ　松女 江川

流し入やこはき香を流る面のくち　存義

流し入や京も嶮しく小盆　泠水

捨扇

一抔の草もかのしらし扇おく　乙二

扇を飾やそこうと絲の音　光浪

捨られし京の仮住や捨扇　菊後

月かけや扇かさして草の宿　一雨

花火

まさしくはいつら果ては花火かな　玉珂

雨雲のきはしく浦田の花火かな　義香

洗ふの小花火も見る手仕舞ども　兎水

これをきくいろよる世の夜花火売　雨壺

我ものはきや花火の下くくりつ　菊塢

角力

と身をおれく首ふる角力かな　花陶

[illegible]緑の松にも名ある[illegible]相撲　雅枝

投られて髪に[illegible]うきまはれ　五陵

よき里のよねを云来や角力くる　素撲

笑をもつくの淵しさや角力かな　曲阿

御射山祭

御射山やきのふ芒りく里　蘭更

神々の一むしろ尽ぬ穂の作　車蓋

子も親も雪汲みかしまて穂末露　石芝

残暑

[illegible]のよくに吉原に残暑かな　芦茂

山梔子の花をこえ身し残暑かな　亘三

蜀黍のむつくしけふも残暑かな　寥松

草毟の田をまく流む残暑かな　護物

初嵐

照ながら日のかけ降やうて初あらし　嵐山

川縁の篠をなつれくそより嵐　みち彦

かくて酉の刹を申まし初あらし　涼濤

あつ風いその小貝も口を交ふ　奇石

けさぬくく松か枝白し初嵐　妙翁

秋風

歌もなし翁の蔵よいまの冷　乙二

秋風をわけしうち貫のくる町　二柳

老業の定青や娘のくせ　大肯

枯風やみるとそする業のきや　猿閑

あき風や家の多さに道ふく　世□

稲妻

稲つまや一打鐶に宵の空　普誰

いな妻にむかしの帆はおろしけり　臭扇

稲妻やちらりとしたら舳をゆる　秦山

いなづまは八節ごめの行くてかな　旧友

稲妻やをさまつてくる舟の胴　さち雄

夜分

野分の関屋へ入す車の影　士朗

住よし野分に暮る生雲　むさ助

古きのならやさらしする鐘の鉄　玉玖

舟戦の肩まくれけり山の霧　松蘿

露

朝霧や馬の嘶る声はずか　女 ちつき

秋の日は何か髪をし草の霧　六車

柳菊やおもしろてまゆる寺の大　五葉

露は見るものやそれしく薬の露　川二

夕るに松かもそめや露の宿　五縄

老し霧のうへ□や山の寺　麻彦

桐一葉

おとろゆる人まうてきん桐一葉　月居

□□□□□□□桐の□葉□　十山

□□□□□□□□桐一葉　鈴松

草鞋□□□□□桐の□□□　女 □急

散柳

網一葉ゝくすへく人も仮り　蛾谷

啼鴨ぬ足らみしうしちる柳　闌く

黄昏や皆しつかにちる柳　東一

ちれもせきちらしに柳散にけり　舟行

見る人もこして通るなりちる柳　玉珂

柳つゝぬ柳のさひ江の日もすゝ　ちうさ

木槿

日八花の中より萎る木槿かな　五明

まつ火ちる露もちりし木槿哉　宜啓

そよ来て咲ぬ小雨の夕木槿　巨氷

折らすとも後八雨にくさく木槿　呂律

折よりて花のくるさよ白木槿　き雄

萩

夜の音なしハされし門の萩　遅月

浪さちる萩かくるゝ秋となす　蘭雪

露の萩ぬちる音のしてまたれ　寸陽

散らての余りちるゝ萩の花　里外

さしゝや雨もちぬ庭のゆふれ哉　義山

朝顔

朝かほや　　よくちり哉　渡之

朝白や翌の日もれ縦手の　雑周

朝かほの咲ぬれしぬ屋くる蓑　五蓮

朝白ちよく咲と知らつ涼し　逆利

のきは月やとゞかけぬ牛の角　宗洲

秋海棠

秋海棠ふる雨は何をか片おもひ　鳥酔

秋海棠芸より花は然もなり　五明

母衣蜘に秋海棠を廉光さ　春鴻

片よるをまつ秋海棠　嵐庭

も日や秋海棠のさく日より　烏径

女郎花

まきまきは赤うしい行や女郎花　斗山

俤をそをかやらぬ結ひぬめらもと　茶静

夕けちらし飄けのおくれへし　双湖

草に引そて八尺まで咲女郎花　而君

薄

手もう咲もには行しおくれへし　護物

世をまするや花のひろし芒　菊瑯

遠かれのすゝや芒の八九月　我竟

みなみ我によそえて薄る日影　菊成

九の水のくえ夕けんそろ女郎薄　百雨

人は負風あらそふ紙の芒　五貞

尾花

夕かりて家は尾花にかくれけり　祐昌

ちる手で八尺とけもかな尾花さ　屋烏

尾花ちる今かまう出る雨の月　草堂

てふの出るのうへ続さきの尾花さ　茶静

萩

夕日のさゝぬかたの花かな　篤節

彼の青の萩ゆかしき家居かな　馬卯

飯椀や下葉をられし風の萩　成美

萩の人ちらし立木月夜かな　菊也

子ら川家の中まで萩のちり　麻直

世をしのぶ人は萩の下ぶしか　杉長

月夜て先折る萩の白いらか　士朗

葉白し蝶のゆきまひかくれて　乙二

蘭

石菖も館もすゞしや蘭の花　茶磐

蘭の香やさめぬ夜の絹　芳居

藤袴

萩の香や鶯飼ふ廃にゆかし垣　草夫

松露の牀のかげに藤袴の波　巣兆

蕨袴よしはや名をて匂ふ也　葛三

さ知りてむかしのひぬ蕨袴　巨昇

古き世の花で育ためふち袴　一肖

桔梗

きちかうもかゆる花屋が持仏ぞ　蕪村

古世久きて今ぬよ八桔梗さ　みち彦

山里や桔梗くらも賣るくる　葛三

日まわやる紋もとめぬ桔梗かな　護物

みやくさの花屑ならでなきもの　春鴻

嵐吹や蕉も撰ずに寄り口　宇橋
み?さきぬいつの此人も蕉ひろ除　愛南
うちは我に嗅ぐ水鶏も来て久よ　文貫
荒屋竹や池をも流るゝ水の痩　双湖

芭蕉

破れせぬ人にもとのおとにものかくし　搏良
芭蕉葉のもつて舞りし身かる　烏頂
吹き入りて夕たちすみ芭蕉の葉　晋和
大寺の秋は芭蕉のうけまふし　嵐文
青天に女も白らゆる芭蕉かな　亀山

葛花

うせいろの葛のむしくおもてかな　且〻

雨なとふ小さき蛇や葛の花かつら　竹馬
ありし夜の手八倒れ葛の花　暁河
よきは山も蕉茂るる葛のむ　古玄

真葛

葛の葉の根を白く成る細日かな　蕪村
葛のを結ひしぬ秋は遠しいそ　蚕彦
葛の葉にふと虫しりし蟻の声　きら雄
ひろくする夕日の後かゝる葛かな　八朗

吾亦紅

大粒に雫之かれたるともかく　杜影
吾亦紅露も亜川らうけしもなし　闌亭
谷々の里くしたるや糸柳　米室

露草

虫にさへふまれて川に流れけり　之彦

夕ぐれも露もちかきや昔草　杜英

露けくさや灯もおきし笠のちく　保吉

清水野の葉を消よる夜の雲　蘭更

露草の露に棲まぬ螢の所かな　扇賀

露草に栖夕けの小流　義山

野菊

露州の露に追はれて折は　女 ちゑ

川上は野菊や出水のなれ哉　季喬

宿とも見て咲く野菊も肖ばかり　棹歌

さし清水もて来て植し野菊かな　盡風

曼珠沙花

栗稗に咲まじる数野菊の花　雀角

野ぎくく咲けば人来る嵯峨の花　女 ゑう

旅人も出しさきは抜ぬ花の也　乙二

絶のほか錫をとりや曼珠沙花　玉光

山伏の山の道しるや曼珠沙花　守橋

秋草

秋のくさ人をわすれぬはなし哉　葛三

見るの江や秋草の秋　徽席

盛衰のよし清きかな秋の景　瀬川

紫の戸にくる時秋草の姫　茶静

霧もりの家の秋草や花のこそ　女 千代

草花

嬉しさよさむしくあらぬ艸の露　乙二

畑からも草まで花の咲にけり　菊女

留守をする兎の巣まで草の花　鱗々

艸の花似りも患しき風そよく　笙々

花ちるやよくも集えし艸の花　岸芦

花の人のはまことあかれ稲の露　吐月

稲花

草の穂もおしさ合けり稲の花　菊所

見をもとの果もこえけり稲の花　二風

露おもてもちしの虫来て稲の花　芋寸

雷の度々落ちし稲の花　長基

早稲

よき里や門口までも早稲の秋　梨翁

早稲の香やかきはこし鴨一羽　時雨

早稲の香や並つや影の家つき　宜彦

早稲の香や座は戸さし夜更月夜　烏命

青瓢

こ瓢もし八十ばかり秋よく垂　閑更

この家も瓢のつるのよそひかな　左琴

青瓢棒ての中とはいはるる　夢南

崖よりの瓢よくまてる瓢かな　国村

よき人のうても大きな瓢かな　芳居

冬瓜

冬瓜汁や色の瘦せたる秋のくれ　白雄

汐抜きもしらぬ人ぞあら汁　之彦

露しくのかゝる味よあら汁　双湖

百ちかふ北窓出来るあら汁　雉啄

西風

用ゝ流し西風をむやす縄くさま　みち彦

駿壺は西風むけりや兵了馬　足彦

きりも慰斗からゆく西風ぞ　愛南

庭の月に似るゝ西風の切ゝ　陸奥 如山

葉生姜

葉生姜やまゝのあふ酒のあて　白雄

葉生姜や薮をもし残の暗ん　一蕙

葉生姜や坂柿よらずもしも鮎　可雪

紫蘇

小鳥のちからゝしよや紫蘇畑　宗讃

むやくしく北を這ふ百やしその花　美ち寿

乙鳥ゝ付よるゝやしその花　何九

浮くゝき波の妹ゝぬりつしそ畑　杜英

ましり杖の紫さえ笏しその雨　文貫

山からの麻のふりむく庭辛子　撲川

唐椒

餉てかゝきあらゝや麻からし　蕪村

盃を持て来たり唐からし　貯江

竹ゝ赤さ垂八まん唐椒　壺山

唐からしつゝみやうてし夕ゝ雨　茶静

鳩吹

山伏の鳩吹まに入りけり　爾山

鳩吹てくれぬ野ゝし樋守りけり　春鴻

鳩吹や袖も濡らして稲の暗　竹吾

推挫て鳩吹なくるあとをかな　九二

旅僧にわかれをたゞし鳩吹く日　護物

鷹打

鷹うちの蓑をうつしく小松かな　掉數

鷹打和歌しありし武士か宿　如翠

鷹打や父ハ在ぞの一の人　一甫

虫

虫売くやかりそめ人も夜寒かる　魚文

むしきくも虫とは夜をやむか　蘭窗

草の戸や白も蛍もむしのこゑ　万九

虫売くや田をかへ水のたゆたゝ　周丹

虫なく月夜も寒く虫の声　よし九

来てもくれうと夜番を出さ　不鷹

蟋蟀

蓬生のいきれさまし行や蟋蟀　蘿月

そのかなたかくもよるきく　月蕉

来てく寸家も菅の哀かな　桂丸

樹の蝉乃声刻々の末至て寸　暁河

松虫

草の露松虫をゆく人か　宗讃

まつ虫や風のふく夜ハ古の宿　景兆

鈴虫

松虫や絶々なれる笠のうへ　孤山

鈴虫に多くらくすれぬ野　朱六

すゞ虫を侍れぬ積藪も秋風に哉　丞義

鈴虫もよかりし秋の油煙の香　啓山

鈴むしや爰ぞよひ合し小娘　護物

鰰

たゝる井や鰰ころる[illegible]　白雄

鰰の[illegible]を河豚[illegible]　花川

鰰にて多く山ずや[illegible]　梅[illegible]

鰰の売てもふく[illegible]　葵真

鰰の髭ゆるや畔の両　李尺

竈馬

鳴る夜やきゝもれし鳴いとゞ　尼 諸九

ちる先や老くれておくいとゞ　奥株

栗焚もかゝらぬや鳴いとゞ　弗水

うき草も実になるやいとゞ鳴　女 ゆう

たくしきりや主時の東から[illegible]　標堂

螽

そくらも以合ざやうふいなご　乙二

川岸の葉色付て飛いなご　鷹一

あつちへも吉ぞれかさんいなご　暁河

葉の中も杖まさる陽やいなご　杏月

蜻蛉

蜻蛉の海に[illegible]てや[illegible]　玉均

蟷螂

かましくる蛙吹の夕ゑ小溝かな　一蕙

おちこくる胡麻売なりきんはさ　一峨

蟷螂や盃供のもらる迄よ針て　柳起

きんほうや仏を細曳のいくの渡　護物

引よせて蟷螂にりぬ下る菊　茶茂

蟷螂の身みしるよする早りかな　掉歌

生くるよん蟷螂のくる笋かな　輪之

蟷螂や逃しこくと草に這ふ　巻く寸

り波きるの脚に拵ふる小果かな　手河

蓑虫鳴

みの虫ハ東山寺の持し子なるへし　童亭

蓑虫も葉よ絶もしのたるくる　可都里

みの虫をきくや夜の声となり　呉友

このむし秋栗もるもなし哉　輪之

蓑虫の秋もさそふか枸杞の面　扇賀

柔らか秋のもてくる藁屑に　掉歌

ものむしや水の木葉をよせてくる　石馬

蓑虫のきこへ古ひて散る葉　桃生

むかしや盃もるる墓の松　蛛夢

蜩

蜩の夕けはいそる小寺かな　みち茂

ひくらしやいまさ世はし暁の声　首三

秋蟬

鯛やころはくまての藪の秋　木海

はくらしや茶龍にみゆる竹の月　梅之

杉の声は帰ゆく甘さなれ　青蘿

うおつのそよふかなれ的の跡　守一

蝉の声磯をうつ波のひゞき　東一

まみしうすかくみても秋し蝶の垣　楚提

秋蝶

衣家の低さをゆるやいさの垣　てる女

地に落て這んともせぬ秋の蝶　雁路

用ハあらぬ折ひハさぬよ秋のくれ　青樹

もろ花をもつ行くましく秋の蝶　李斈

秋螢

涼切のたおもぬ草や秋のくれ　九皐

蛍の夏も断ハ嵐のふりあをと　石雛

秋ふくや稲葉の螢さむく　みち彦

あ露よ浅くて秋の海か　掉歌

秋蚊

川涼やむかしと秋とよる華　凡二

ワれ飯の流されしる掉坊　闌更

秋の蚊やいかくるは嘴ふ　丈芝

うけうれもて杉葉もふのむ秋の蚊を　ちよ紀

秋蠅

朝臺のうけもよすうる嘴坊や　一肖

蠅出るに死ぬつくとこそ秋日和　暁臺

初鮭

魴

鱸

蝶の鱷夜さらめかりを学ひし　春鴻

茅涼むかたもなかりけり何さの鱷　詠帰

夜涼み人をはなれて蛙の声　竹馬

石川鮭に里の今日定めて李　潟雨

初鮭や萩の小家もよい日和　さら雄

くらき子の露に双六ん風情　宇橋

ちらちらや雲に青葉の露　一肖

おもしろもすゝしからめく魴つる　太舞

百三日や名月露む鱸つる　宗讃

藪の外に出る石摺し すゝき　こら彦

鰍

旅人に並行く河原夕夜の声　蘭更

行きゆく夕の雲やかし鳴　蔦三

押出す友達なかしく鳴鰍　万井

畑枝の夜の雨逸し鰍哉　杜蓼

皆かけやうしろ二つの月夜よそ　万寿友

落鮎

夜行らしや落ちて八幡瀬の鮎　白雄

花の鮎ふ紫さして落ちりく　保吉

秋の鮎来年流もかくれなく　春谷

鮎の背や露に落てさしけり　双湖

杉深し鮎おちつる山のさし　太郎彦

鰯曳

引捨てゝもきらほくいわしかな　万和

いわし引やいわしの上の井くし引　李尺

小鰯の味よく成りや月の色　梅寿

引そへ浜細や鰯を干浜の秋　文貫

八月

八月や風もそめぬ浪のいろ　栄彦

八月の二日八月きえる日かな　存阿

八月や起て蚊帳つる夜も有　浦人

八月も精出いてぬ藻もかなかな　掉歌

葉月

雲太く萩咲きし葉月かな　壺羊

八朔

露のこる風まつ実の入葉月　文貫

もし我女か帷子さきし葉月かな　里喜女

八朔や旅八幡ちうの白き色　暁臺

八さくや船歌きゝの新涼　春鴻

八朔の甃をり町の寺　禾木

八朔やそめよく麦小百姓　鷲溪

八朔や掃除して内儀堂　芳居

田面日

唄比丘尼そのもの門をとおりけり　春鴻

橋の上も時気くや田面の日　千杏

秋彼岸

油火を消まぬ夜や彼岸入　芝得

放生會

流れ藻の実をもつらし彼岸ぐさ　亀丈

色かへぬ椎のみか流く彼岸の服　南井

打寄し月夜鵜も放生會　白雄

あらいて牛も蘇る日也放生会　竹世

立はらふ鳥の声よ放生会　一泉

放しやる足も静かに孔雀かな　茶静

そのまゝに鳴て去りけり放し鳥　一蕙

初月

さかしら月や佛も君のあらき春　嵐丈

初月の趣向をみんな暮らしけり　宇橋

庵きらしれのかはりや初月夜　東我

二葉にあつしけ浦や初月夜　芝浮

三日月

みか月や小松のこゆる町あかり　草夫

三日月ハいつも何かの斉かな　士朗

あか翌のかゝりきく行り三日の月　素檗

黄昏を遠し鳥なき三日の月　芽行

又角力たちはさはく三日の月　天光

椰の葉に濡む船からん三日の月　艸夫

待霄

まつ川霄に空の是かし迷ひかな　保吉

待もひとと月をもうけぬ物古　盛蔵

待宵や月さしたる中の何の餘　輪之

名月

待宵の心ゆるしぬ旅ねけり　与人

夕川や月やまつらんなかき兎　五縄

名月や夜は人住ぬ峰の茶屋　蕪村

名月やまよふ雲にも汐さし　野渡

名月や立てまし臥さ中も茅　烏章

明月にあはれな庵の額か形　雪彦

今日月

名月や雲ハかゝ山に雨の後　さゝ雄

古寺のともしきゆるけふの月　白居

みそぎにもいらぬ水茎やけふの月　参典

花もなき波としてしくやけふの月　士朗

旅人も宿とけまてけふの月　月化

出迎ぬ山そてハ南しけふの月　茶静

良夜雨

名月や何をこぼして萩の雨　士朗

名月の白くなりけり雨の粒　可都里

月に待ておのゝ京もなる雨か　乙二

戻るかけや雨の夜すからけふの月　素龍

濡る出人静かに流るゝ月の雨　護物

良夜蝕

さましくす海のあく迄の月の蝕　北冥

蝕るむやふまぬ月の京あらしき　孤山

蝕くれて名月さらにあらたなし　護物

十六夜

小いさ浪知らりいさよふ月夜かな　杜蘭

ふかやくもいさよふ月にさはりけり　冥々

咲さうに探り出しけり花茗荷　紫明

十六夜や戸をしめてある八尼寺かな　南井

いさよひや手に落や立ちし芋の露　兎暁

月見

月見るや蓮の中なるくさき虫　存義

招かれて馬の人あまた月見かな　擇良

声はまて汐さす宿の月見かな　繁里

七浦の風を袂に月見かな　芳竹

忘れぬ夜を京宿の月見かな　一蛾

月

月しろや家もちうろうし箕のくさき　還古

月うつ下行のゝゆくてゝ雲を青し　草友

月なくて賑ふや垣根のうへ花ぬれて　路菫

人の曲りぬ手繰けり水の月　文晁

さすがに月に影ぬ蝶の身の知らぬもの也　（少女）きさち

しら浪しめ浪にこぼれての雨の月　擇良

雨月

雨もよしや月もうれしや雨の宿　士朗

雨ゆるみそれより月のちらつきて　成美

としくまだ盛入りけり雨の月　亜渓

月の雨くもれよ夜田刈るものもふも　輪之

秋月

あきらけき夜ハおもしろし河原の月　雄渕
入あひのかねてありける秋の月　乙彦
生れる日ハ忘れし秋の月　雍文
おもしろきのみかたもなき秋の月　宜彦
深山路や文ふる昔の秋の月　鵲二

月秋

月の秋池の底しつかさかれむる　みち彦
田子島の居家もしむ比よ月の秋　周里
兎角しく惜みくし月の秋　一肖
花よりもこのよふ命しぬ月の秋　譲牧

駒牽

逢坂をなかくきし大津絵り　春鴻
駒ひきのけふくるまのむ　湖水ぞ　淋山
駒曳や由来をとへば　蔦もみぢ　玉光
清水の屋もよ騒るも　逢坂ぞ　春葉
駒曳やむかし近江の夕まぐれ　一肖
はるかなる里まで白や駒むかへ　太無

駒迎

駒迎花すゝき　菜もへか　井尤
皆すれそ芽もそれよ　駒迎　茶静

初汐

さし汐や仲さす門のはられ　棹歌
初汐よのぼる一葉のあは　雛扇
さし汐や芒一もと　蟠

秋日

石垣やしけ汐のくる樓の宿　州夫

さつ汐や鷗はなるゝやゝし羽　一肖

ゆきの日は尽るまにくれて月夜かな　木僊

蛯のりや引る鯨の沙まくら　輪之

終る秋の日和ちるあや猿茹子　五縄

あきの日は片手へさしかゝる名残かな　茶静

秋夜

娘の日をうゑへてありし名残叡　梅溪

苗まの畑しまふや夜の虫　光堂

秋の夜や舟やるゝふ音白し　卜鯆

人まもおかれこはや夜の娘　木肯

長夜

秋の夜は燗も一葉をさかふ灯り　草夫

ゆきのあかりくもり雲の穴　不玉

長き夜や子よまなりて鶏の聲　袁丁

門あくしらさへなくて夜ぞ長き　不冬

おもきまず歯のくしきや何木実　女 ちりき

せきくあを波の音くや永の旅　よ香

なりき夜をりし川に吹出す風かな　蕪尺

夜寒

夜寒さやす浴や衣まるの灯の白　杜蓼

夜やさびしき寝よも蕎のうけのさす　巍道

夜寒さの人よすまる山の端　可亭

肌寒

石臼のよくくむ声や夜寒の時　梅寿

清掃しの夜する声のく東寒く　梅塢

寒くなりて肌寒き夜の柱かな　闌更

肌寒やとみんほす夜し夜の燧　春鴻

ちゝ寒起ちし矢を杖のかしらかな　真簑

肌寒や人も唇ふるふ硫黄小屋　樂只

漸寒

湯風呂のたまりしまより肌寒さ　梅寿

漸寒の万年青まとふ雫かな　武山

漸寒やうきの果て鳴水ふし田　了へ女

朝寒し日和して来る京の憶　掃石

秋寒

秋寒や水のおとりハうら秋　東峨

秋寒し竹に清ぬかい清水　掉歌

秋寒や山を見るもあの雲のはし　万九

く秋日をかさぬる旅の寒さかな　石芝

秋寒の秋もふかく清家の音　茶静

露寒

露寒くおちや菊すく秋日　すし免

露寒さふゝみて尺とる擬虫　清風

清ゆ寒し宇ちり体る味噌汁　太郎夜

胴海老の寒さえる秋や露寒き　茶静

秋雲

ちゝまいぬくみえて業多く杖の雲　呉山

秋山

一筋の灯も来りり夜の雲　豊前 萬里

持捨し侍りちるや秋の雲　梅笑

交鶴の声を入るや秋の雲　麻直

秋の雲新の町を通りけり　宇橋

かさもなき海にかゝりて秋の山　騏道

の川かける雲もろなかて秋の山　菊也

秋の山豆子の眼さしおろかな　乙二

行末の山ともなしのこる人　野松

人なりのして行き秋の山　玉光

秋水

浪もの段里清くさて秋の声　猨丸

野分

行きや太葉さそふ行きの音　江戸 烏明

子ぬからの音うるさく秋の音　標堂

夕ぐれのうらよりや行きの水　菊塢

掃のく隙ゐの扉も秋の音　一肖

市人の夜る官られ野分かな　蕪村

吉て鶏や野分立ゆまて宵啼す　春鳩

狩に垣根たゝきし野分かな　蔦三

野分吹行もせずなぬ山しろく　乙二

稲妻のかるかなしや野分ふく　雨塘

秋夕

拝みて寺で行する秋の暮　無説

擣衣

奥ゝゑのあきのさゝよいつの夕　鵞雪

角力取の投出す口へや秋のくれ　漫之

毎日や秋八夕の多ゝみ来　茶静

絲のなき茅洩る舎や秋のくれ　菊塢

路中よ着日宿かりくは夜砧　千丈

来ゝ駄しいまだ乾かぬ衣うつ　月居

ならゝ川まや湯暮のむらは士　南阜

工まゝ川や見の里にも峯の宿　鱗々

まさめくゝら仕舞へさ月の通ひぐ　良讃

紫山子

招く日も持て売かゝしかな　鳥酔

鳴子

ゆる免しや稚を小まてま立つし　雪人

尺伸まうしは洩る月の東山かな　曽牛

紫山子去て秋ら似合ふ庵山家　旬光

人去り葉山子をも川月日かな　之禄女

寐てゐけも猫のちよよ鳴子かな　武陵

志川ら木の穣におきもつ鳴子かな　棠慧

何ようそ鳴子かけたる雲の窓　痩菊

風吹くそよろかましや水なる子　旬光

引板

鳴子むしく人ものゆるや茅の宿　杏樟

山住のこれを住しや引板の音　白養

添水

さよふかも鳴ならしも引板の音　應嵩
おとろへも峰にかよふし引板の音　来石
山の積も遠き夜比や引板の音　菊塢
引板の音へきや小里の人の無事　護物
おどろかす添水のうけや人の上　白雄
此音ハ添水なる人し月の中　乙二
冬くさの門口うつる添水かな　升六
うき日ハうらやれけり添水かな　千影

稲

稲の秋来ル雀のなりけり　淂雨
稲を読にめでゝし門の細流き　北岱

田刈

稲の匂ひ京の川へも出る船で　晋峰
夕暮の如きもなき稲むしろ　禾木
老松の家なんに似るゝ稲の好　栄技
是田刈や祝て体も身てもなし　蘭更
外椿や芙蓉のちるも門並し　とち彦
稲刈ぬおもしろや灯のもゆる　笛さゝと
稲かくの裸に付し濃小舟かな　雨木
夕暮の刈田見えつゝ垣根かな　士朗

干稲

稲かけて枝も持し山家かな　馬卯
山里や干稲かゝる月の色　表丁

落穂

稲干ばや人に追るゝ鴫のこゑ　晋峰

落穂拾ひ日のあたる方へあゆみ行　蕪村

神寂に松ちるの落穂年寄る　保吉

先寒し落穂よりくる霜の色　宗讃

舩風のおち穂こくいくらし舟　竹馬

乞ふて八伏寝にもとる落穂かな　女 きつ

粟

粟畑に何をまはいふ山の鷺　季彦

山里や挽も通さん粟を干ば　一蕙

鴫の寐るあたりの月夜や粟畠　呂水

黍

穂をせつく黍やきのふの雨のまゝ　茶静

黍一穂あかりし宵の枝折戸に　孤山

黍青や花ちるけしのはくまれ　暁河

木陰ぬけぬき山下や黍高く　草夫

家暑く縄継ぶらし黍の畝　雪宰

芋

風呂の坂をころゝ芋の葉かげかな　泉兆

菱角かる舟芋持てば料の膳　乙二

麻売の美にぞなさし子芋かな　冥々

芋がしら白ふきよりも見え頃也　輪之

零余子

雀類かゝれちまるゝむかふちる　季彦

里の子はよあれむくゝる噂もかくり　揮堂

柿

佐賀に出る片番のむかしかな　雪橙
柿かけし價も望の野かな　保吉
木もりの柿の赤さよ尼か庵　敬義
筆柿の筆の付る寺子かな　春葦
青柿の落てうつぬ墨か穿　如毛
柿くふて人里とくもとけりな　百丈

熟柿

作りの秋は熟柿にかたまりけり　夢南
宵からに染し熟柿の思ひかな　楼戸呂

蔦

庵を旅もとゝる蔦の径かな　乙因
置る露は実もうしてつる蔦の葉　完来

冬ちかきてもこゝろ松の蔦　茶静
戸の音もぬくもよいの蔦の家　玉光
ふかり蔦に窓より雀かな　春雄

蔦紅葉

いつとなく色付けりや蔦もみち　春鳴
流れくるむし汁の実から蔦紅葉　蘿文
うらうらぬ蔦おもかたる紅葉哉　魚渓

初紅葉

初もみち葉粥の後の若葉かな　袁丁
新緑もしんの色やもみ紅葉　蕉雨
古寺にふかれて藤かちり紅葉　女ゝ
初もみちりしの二葉かくしるゝ　亀丈

芙蓉

鳩の子のまめ／＼しさよ初紅葉　竹里

立いでゝ芙蓉の凋むりゆく人よ　白雄

きゝ知る芙蓉のむもの夕かな　軒六

夏の後の手洗ひやちる芙蓉　岩露

ひるもはや見ぬ手や芙蓉さく　崑丈

芙蓉さし秋さく花と見られけれ　應々

木犀

木犀の香に歌あはき白ふれぬ　彌六

白妙ものくれ木犀にとゞまる作　一愷

香の羽せ木犀まかし香のきき　竹馬

穂芦

芦畑の楳に白き穂芦かな　太無

芦の穂にかゝえある月夜かな　松兄

むら芦や秋さし舟の穂にうき　扇和

小酒盛の日くけに来ぬ防しの舟　鹿太

谷々や穂芦をのぼる秋の雲　岸根

舟路の舟刈萱はしりその先に　暁臺

刈萱

刈萱の岸畑落るむ夕かな　士朗

うちふやのちりくるや山おろし　袁丁

刈萱の下這ふ舟のゆきかな　杜蓼

刈萱や山の日かげしむし曇　炉扇

雞頭

雞頭や多くつもれバそろふなし　書蘿

紫苑

紫苑にも来ても只居る雀の形　雪彦
夕かけてさやあら新や葉かくれて　具翠
紫苑や隅櫓添ふ手の中　宗砂
あしさしぬ紫くう畑や紫苑草　妙扇
いろ見えし風邪しらる紫苑の形　雪雄
内京に紀るうら清く色はふる　芙丸
花ま葉に夕日さす浅し紫苑哉　秋菜
紫苑の日ら崩しく[illegible]紫苑さく　里丸
酒舟の座千自昭て紫苑咲　淡水

花野

扇枝に[illegible]の花野くるる形　春鴻
牡丹さの牛より下りて添ふ花野かな　乙因
芒されしやうや花野の薄葉　竹吾
うち清けき風の袖ぶく花野哉　壺羊
紫夜さへ見し花野の[illegible]　月鴻

秋野

あきの野や[illegible]の露　保吉
秋の野や牛追ふてる[illegible]　可都里
野の[illegible]人[illegible]　秀哉
秋の野やさそふ夕日さす　茶静

蕎麦花

宿とふ[illegible]や蕎麦の花　椿堂
夜さぶしの[illegible]はの[illegible]　千沫

蓼花

みそ蓼とて折る山家や手はの茎　孫考

太家に畑一杯や蓼の茎　佑井之

そその茎木の高山もまた淋し　東我

大蓼の茎に伸て花赤し　藤壽

傘さして出とさる家や蓼の花　右雄

逆まれる舟のゆくゑや蓼の花　孤山

鳥風

むしろ包まてはれ折ての茎　井 本波也

三日月のけふてり入や鳥風　廣陵

ちるさまてし葉の折や鳥風　天民

野ら暮て蕎麦あらためし鳥風　利根吉

木綿摘

佛まも初穂にひつの木綿摘　雲 乙二

世の中を苦むやむ老の木綿摘　軽舟

塊の角さへ見えぬ木綿摘　一肖

荒なふの先ちもささつ見る畠　江戸 其翠

藥堀

葉をとる人いさしさをさせんとす　大江丸

根もおくれぬあらやくさく堀　暁河

木賊刈

山人や老のちからに木賊かる　壽翁

はりきた木は採て返しけり木賊刈　啓山

鳥かるの渋えとゑてきた刈　一素

鹿

火のうけをとりまてやよりの山の鹿　来矩

鹿笛

うきてけりものうちらく志つの声　琴川

そゝくさや西行の鹿の声　湛石

いけの中能戸の口にそて鹿の声　操志

暁の夢や留めてしまう鹿の声　茶静

鹿笛の切れくゝをきれにふ深　青〻

鹿笛や弓張月の入かゝる築　竹児

志ゝ笛の声さはかりまつ袖の里　寛里

鹿笛の吹かれて谷も峰　雲舎

初雁

ちり雁や日しまゐらしくす　士朗

刈跡は麻も実うぶき雁の声　克一

雁

雁の声てきむし菅の小池かな　茶静

味をしむ雁餅蒔の竈何ぞする　草夫

初雁は数の名をかけ季　〻ア〻

沙先の嵐ちかし雁の声　巴堂

雁なくや身は浮まれぬ小風もなし　真恒

雁の声旅の露光ありて行里　太郎兵

芦鳴や雨ほちかしく雁のなく　成章

雁なくや梅の漂まて夜の沙　對良

鴫

鴫たつや多きはとの風情なき　月居

鴫たつの多くはなれしも夕鳥　福采

鶉

夕雲のちりくはや鶉のこゑ　斗園

二度とも鳴らぬ草村のうづら　南井

鳴突てあらきむ人に見えうづら　茶静

鶉なくあや稗穂にすゝむ雨　掉歌

夕月や草むらいでゝなく鶉　江水

負債の質の籾なき鳴うづら　蕉雨

日八草のたんまりて啼鶉　喜山

啼出してや見えぬとしてもこゑ頻　袁丁

啄木鳥

木つゝきの尺ふ鳴く木高うき　擣堂

木つゝきのあゝまうつ夕日かな　乙二

木つゝきのたてハ手まけやくまけて　月化

木啄や銭のあらうつ枝ゝ鳴　茶静

木つゝきの出しきる雨ふる　李尺

稲雀

啄木しと翌日ハちるめ稲すゝめ　士朗

稲つくるてた夏川雀　孤山

似しろのかまくなし稲雀　太節

よき人によき見飽ぬ稲雀　秋露

稲にまく雀より来の日の出なる　太郎寺

鵙

風と行くよ聞く鵙の声　闌更

鵙なくや沙田入枝の林　完来

賤も雇月夜にあるや渡中しま　乙且

ゆふけの葉のそれもよしや風の糸　可九

山越や雲をしたふる百舌鳥の声　女 ちとせ

萩の枝にふるとし帰る乙鳥の声　菜兆

乙鳥帰る

枯ゆやき葎にかくれなれり乙鳥　草均

喜見の江のあはれしらずゆく葉　妓女 七越

渡鳥

蜀黍も羊積にしくれかくし鳥　みち義

横雲に首まくらるれて聴く鳥かな　茶枚

江の日あしの雨の重きうらくにとる　吾凌

言渡や小雪の寒法旅のまま　明良

鶺鴒

うら侍るもうしろ見かしら梢の鳥　柳美

鶺鴒の並木を走る野亭の庭　袁丁

せきれいの来て八歩にする棧橋　亭橋

鶺鴒の尾ふりふり座列に入りにけり　三化

鶺鴒八歩の月くるまふ庭の鳥　直也

きれいの嘴をへしけるさへ花　一肖

蛇入穴

手くさ取やえし蛇の穴さし　竜河

穴に入蛇や小面の鳥しけり迄　寿雀

穴さらま蛇にそくへるうれしさ　一可

糸の縁にもつれし手　新米書屋

新酒

新米やつきおろす手も朝のうち　寥松

さき見て詩の得られけむ新酒　灞陵

いかに清らなる出しける新酒　春鳴

里並や坂中寺のかくし酒　恒丸

染てけり杉ハ新しき年酒　光浪

焼飯の陽なたあふれや年酒　玉珂

九月

東ふむ枝をゆるさむ九月哉　方和

菊月や去年ハ香ある夜の霜　梅一

松高き山の九月となりにけり　真嵐

重陽

松すぎる日の幟ものこる九月哉　茶静

道ある都でも深し九月の姫　士朗

誠の子のそれからも入よけふの菊　みち彦

馬の尾もそれなり九月九日哉　乙二

菊酒

活をしも谷川に流り菊の酒　くら彦

きくの陽醒りそぞろに露もなし　闌更

後雛

柿の葉で子供ハ作る後の雛　詠帰

生娘ハ古りて見し後の雛　瘦菊

かしこくも鈴の美しきさくら雛　松女 明石

十日菊

家々にもち出す菊の十日の雛　李翠

酒盛のぬる燗ゆるしや十日菊　玉蓮

後る名を手折も初ぬ十日菊　得阿

かえへし十日よ寄りぬ寺の菊　痩菊

鉼々市

鉼市を来て後ゆめ五郎太夫　みどり彦

来ても月花鉼する鉼ゆるくさ　孤山

杉銘をとりしも美女のぬ市の鉼　さち雄

山もと立ちり鉼を鉼の市　生升

備しことまの市やそりらゝ　古天

十三夜

来る夜の月も猶えつ十三夜　士朗

暮闇の更けも早し十三夜　上峯

月ゝや来ゝや来ゝ十三夜　太節

宗よ縁ゝ百の蓮の十三夜　多南

こいき家の月に拝む十三夜　護物

后月

そゞ松きしちれ寺しや後の月　萬三

薄むらそゝそゝ入ものちり月　可都里

居酒のむす小あらぬ後の月　菊厓

後の月比窪寺家の世ゝ[illegible]て　茶静

鯖鯵の縁もらけもてのちり月　鉛翁

名残月

月夜ゝし百のおし名残の手　揮良

月の名残出せ[illegible]ゝ子郷さぬ　太笠

御遷宮

[illegible]月の余波[illegible]　士朗

[illegible]の旭[illegible]　白雄

[illegible]の[illegible]　後水

野宮別

[illegible]　詠帰

[illegible]の百　護物

秋雨

[illegible]夜[illegible]杖[illegible]　臥央

[illegible]の萩[illegible]　流芝

山川ハ[illegible]獨[illegible]の[illegible]　雉扇

[illegible]秋の雨　痩菊

大沙の川[illegible]　去鮭

露時雨

[illegible]　闌更

[illegible]の上　潟雨

[illegible]の[illegible]　露竹

秋時雨

山篠の[illegible]　千代

[illegible]耳の[illegible]秋の[illegible]　玉光

[illegible]　乙内

[illegible]　士朗

[illegible]の味[illegible]　九朴

[illegible]蓮の[illegible]　護物

露霜

[illegible]や[illegible]　[illegible]

秋霜

露霜や妻迎へしまふ畑のくは　茶静

露霜や枸杞の垣根の蚯剤穴　来同

汐中霜や篠にかくるる鮒かな　一肖

横さ波に焼の霜ふむ小蟹かな　春鴻

うき竹の骨をさらりと秋の霜　嵐丈

雁鴨ところの吟会ひとく枯の霜　守三

草鞋の糸ぐもいまはあきの霜　女 くみ

紅葉

鯛に名の有もまぎれものよ浦紅葉　不騫

紅葉見の行妹町をまもりけり　三巴

もみぢするやまの名の夜有明星　うはく

生鯉の太さもいとみぢかし　天画

紅葉して日の照りしく山かな　撫月

幼い人もあつさとりゆる柿紅葉　其蕎

稲道ふさくるさは柿もみぢ　萬三

柿紅葉

田にはいはうちしもは柿紅葉　東我

笑は合ふ懐もちより柿もみぢ　壺口

草紅葉

秋相葉の見すてはやや草紅葉　逸英

小百くさ枯るむらくさ紅葉　女 千信

赤兎の行巾もとめよ草もみぢ　きち雄

山深くくるまきて孫草もみち　萬斗

菊

菜さゝや晴まで来るゝ餅　梅六

何やら灯ちらす菊の香　梅者尼

菊の色や鶏場へ通ふ人の酒　亀鄰

いつの肴に持てばよしや寒菊　珠山

是よりの菊に露の秋かな　明良

梅嫁

冬籠る虫にしての花梅嫁さ　廣陵

身ゆへの牡丹さへやうめ嫁　雪方

溜桶の水よりまいりの梅もどき　蔦也

芭蕉に接ぎて垂れし梅嫁　文貫

末枯

うら枯や広に浦の町　[illegible]

柚

末からや畔にや沙俵　茶静

末枯や向もそろへぬ新家　旬光

うら枯や田具流るゝ綿　葉山

末の色や頬白かくる小酒店　一峲

植おしの柚も色入りてそれの香　[illegible]

何くれて一人の柚の香も　菊也

月かけの色に比て柚の色に　布席

桶にちの数うけてや赤き柚　魚之紋

芝生の中に一さいさぬ柚の色に　[illegible]

木實

深山の後もてまて木實かな　鳥[illegible]

いちまや精舎むく椋の実　普言

木の実のこぼるゝ月夜かな　蘿雲

唯くらし[illegible]椋の実かな　哀丁

晴ても庚申まつり木の実ちる　南井

梨子

梨子むくや[illegible]の月の[illegible]　東陽

[illegible]梨子の[illegible]　可九

栗

夜すがら[illegible]新の栗　草風

栗むく[illegible]や[illegible]　弓雄

起様[illegible]や栗[illegible]　菅六

落栗や[illegible]　阿竹

川舟に[illegible]栗　[illegible]女

椎

[illegible]や椎の宿　百嬰

椎の実に[illegible]　吐雲

鶉の背[illegible]椎の[illegible]　五瀧

椎の実や門に[illegible]　茶静

落様や[illegible]　ちろき

茱萸

茱萸[illegible]や[illegible]実を[illegible]　白雄

[illegible]山の日[illegible]　炒翁

[illegible]海に茱萸の[illegible]　輪之

[illegible]や[illegible]牛[illegible]　雪[illegible]

菌

杖伐まうの底にあめをあけるもの宮　晋峰
通草をむ日和にもきや山の町　几二
ゆうまくしくほかおもしや菌うくう　鳥明
そのいくぬ人の切ぶる菌かな　淂雨
樣きや菌都にう法古折岩　楓山
嫁の菓子日かけをしむや菌かな　鷺洲

松露

小松ふむ底の冬さよきのこ時　亀旌
松露うるや新よ底うる爺かな　有則
味きめうらく入りけり松露かき　宇三
六代のうまねうの松露代　樂只

落水

二三尺移の沙きや落しけり　月逢
ゆう門も先へうる姥し落し水　峰文
糸堂の杉せまゆうや落し水　楓山
落し水夜に垣の世うまさしかな　默菊

崩簗

崩れかかる簗ふかまる絆木かな　枚悠
とかう矢の流れて来さくつれ簗　李青
山背の寒さうえしても崩れ簗　宇鶴
きるめ手も松を崩ぶまぬくつれ簗　禾木

網代打

罷浪る場もつうそふや網代打　成美
乗うち雲を操りてゆく網代かな　捧文

行秋

いしなおり杉の年貢をかすをけさ　草丈

行秋の塵となるぬてふの翅　省吾

ふしのくらや男の末葉は秋を行　与人

辛き艸の下葉や秋も二三日　仙肯

ゆく秋を粉になし見る菜汁かな　加賀 雪人

行秋やよれし畑の家のかれ　古月

暮秋

馬下りて富士にわかれも秋の暮　几董

暮なめいつしかゆく蜻蛉の暮　春鴻

かりひさ新たにくしかくて漁の暮　壺年

腸のなくなるよふに秋は暮るらん　咲菊

九月盡

乙鳥の尾にて見る秋も暮にけり　江戸 万里

縄も居ぬ畔の家や九月盡　みち長

京へ出る道のうれしさ九月盡　茶讃

山弓の袖ふきとぢよ九月盡　列二

童猿の日詠しつれなり九月盡　菊塢

帰る子をまくられハせし九月盡　玉兄

田喜菴護物輯

○冬之部

初冬

もゝ川や二ツ手に着るゝきゝ初　暁臺

初冬や楪下の町の行くる数　みち彦

冬ごもりやそろそろしく松の露　可盈

行となく冬の立ける茶木哉　仙骨

こゝろやすき人ハ不心の人通り　太郎茂

十月

十月ハ兎と猿の日南かな　雛路

十月のそよぎをおこす松葉哉　百尓

神無月

十月や芒の中の水のおと　素樸

十月や影日のうら淋しき角　茶静

十月や猪におちらる流されし猫　玉光

殊さらに哀れもさびし神無月　童亨

小春日の風も何やらうらゝなる月　巣兆

日の向ふ古鉄ごそや神無月　朶年

もみぢしや木実も法泰の神無月　名頓

峰の灯に松の世紙し神無月　東一

灯もとして簾上戸さし神の留守　呑友

神留主

草も黄に散りぬ葉末の神の留主　谿斎

濱の鳥跡あるゝしぐれしさま神の留守　女　芝波

市神も留守まであかるゝ影の前　芳居

神の留守を平家よりまさる家構や　護牧

一月の落葉も掃て神むかへ　蝶夢

神迎

油町おくし山家も掃て神迎　樂水

神迎牛の鼓をかゝさずに　一菓

山里ら星ふるまでの神迎　桟車

蛭子講

いつの比まで帳ハ殘らん蛭子講　夢南

女房のおとなしやかさも蛭子講　飄山

蛭子講くらしの白ハおくるゝ　石芝

亥猪

升市にくらけし息や亥子講　春来

菜二升小蕪の中の亥猪かな　蓼太

口上のさしれる亥さぬめくら餅　吐月

玄猪茸をふくや亥猪の門の前　万寿亭友

ちるる霜も白き笑出す亥猪かな　詠帰

梅もさく穗などの亥猪の日和かな　宁橋

達磨忌

達磨忌や後らくさきし背をも見　蜂京

達磨忌や南天の入りけの中　也二

達磨忌や人のえなぬ五日月　午心

達磨忌八山吹そし一ツ　三竟

達磨忌やとふてしらうずの硯の白　茶静

大師講

寺の屋根蠅も出ぬ気色大師講　喜齋

杓子とる辞やわらし大師講　宁橋

孫うしろまむすむすめや大師講　亀丈

皿鉢も揃ふる色目や大師講　玉蓮

祢宜殿を浮き出すや大師講　みち彦

十夜

八丈縞も娶ぬおろしる十夜かな　月化

混ぜら菜白一一十夜の講うしら　蕉雨

忘のさらの北あらうき床で十夜かな　露竺

きんしおきら白いや十夜のおこし菓　女 ちくさ

御命講

梨子ぐちの座ぐりおりや会式寺　雨塘

酒樽の車引けり御命講　茶静

清香講や仏に[illegible]　一肖

沓戸町や会式の[illegible]一さかり　護物

御取越

[illegible]椿も御取越　柳几

[illegible]の日[illegible]御取越　梟兆

六八座の操[illegible]や御取越　完夫

[illegible]米二俵　成美

[illegible]八十の[illegible]御取越　文貫

芭蕉忌

[illegible]の[illegible]翁　搏良

今は昔となりにけり十二日　無説

会式[illegible]も来ぬ翁の日　みち彦

翁[illegible]菊のその女が[illegible]　桂袖

[illegible]扇　護物

[illegible]小春の門や牛の[illegible]　湖山

[illegible]の[illegible]小[illegible]　百嬰

[illegible]小[illegible]　南村

山蛾の[illegible]小春[illegible]　梅渓

[illegible]　文晁

小六月

生海苔干し浦[illegible]小六月　玉屑

朝々日の一輪すゝし小六月　可斎
梢舟のこゝろもありし小六月　北眞
中十日月かめくらし小六月　如松
沖波の夜もなごりや小六月　禾木

冬日

冬の日のさすや鯉くる菴の猫　標堂
田轄ふくやその影日の冰まゝ星　足彦
鰹くすむ里のあられや冬日影　東眠
芝巻の乾けふかゝれそれ日の雨　呂律

冬夜

冬の夜や蕪ふるいまだけ法師　士朗
烏羽玉の蓮の面白き冬の夜ぞ　みち吉

冬の夜や汁もあまりておそろしき　雪雄
山中のおや芭蕉の名も流行く　木海
冬の夜や指先くる燈の灯　讓物

冬月

冬浪のまとに玉しかりの月　琴□
志ら紙て草に入り山中の月　三喬
橋ハまうし光る冬の月　李冬
月霄く沖の押出し冬の里　貞風
入海のきし波にさそひて冬の月　萬鎮

初時雨

うきて冬八木にて時雨　士朗
五町八みくもあらし時雨　澄水

時雨

石蕗にぬるゝきの光りや初時雨　茶静

いさ山の端にゝ見る色初しくれ　玉光

その影しる光てらしや初時雨　太節

光り陰や明るくちらる菊の花　遅春

きりさの声ゝ見くして時雨かな　奠之

時雨るゝの線描て去る光くれかな　椿来

光く陰やそれて先さく燈の種　蒹葭

はるかる退てきの明や積まくし　浪花　鳴明

時雨るゝ夜や稲妻の手川の上　士蔵

竹中雨

竹けら神さんは小夜しくれ　可都里

松か江に暮着つ春の小夜しくれ　長翁

ちるしや月夜の手跡き帰の松　士明

夜半の房山宿の床見るきく手まう　護物

松風時雨

松さの夜明てふるしくれかな　乙二

松風のやるとしろりむく時雨　芳居

窓くのゆ見志くて時雨の松　花女　豊国

初霜

その声に初霜れる床蘇この郷　鉄船

ゆり雨のや枯る蘇の色く猫　扇着

初霜にぬくまとまつやさく菊　帆山

さつ霜やこちしもそめ山の葉　椿堂

霜

香門の跡ゆかしかり霜の松　千丈

菜たけや雀足しるしけり　斧枝

かくれ家も人目ハうれし毎の霜　壺羊

それも又日のさし霜の茂芽だ　黒K

寐る人も音ともなえし皆の霜　ろん女

霜夜

さびしさの家も尺人来ぬ霜夜哉　青阿

満月のちゆきしらゆる霜夜哉　衛星

揺徙のたられし夜し霜の笠　悦二

輪解の八斉も流し霜夜かな　梅塢

をくる霜や星の目のこむ束比　護物

初雪

初雪の跡やさ賞もおし　泰昌

なれ川やふらさ降てしくしき　椿堂

さら雪や誰あ手前人家さへて　ノ且

初雪的御下げし五六日　晋亭

まつ雪の山尤手かりや新の稲　茶静

冬雨

夜降ハ光のもの音冬の雨　呉光

ふる日ハふゆめのさしふゆの雨　永枝

ぬれ方のもて来しもの冬の雨　旬光

草かけさや焼ぬ煙雨の冬　石雞

木枯

時の赤き月の木枯吹くれく　雪三

木からしや川越て行く琵琶法師　棹歌
風や友くつれして鴫のかへる　紅卵
木枯や鹿にものやる町はつれ　南井
こからしや明ゆく月をよそ楓　栄子

冬され

冬されや見ところ中く貝の殻　闌更
冬されやいつまて青き木の実　祇徳
みそされや垣とえて行く雨触　蕪[illegible]
冬さされやかくしてさき鐘の穴　いさ女

冬枯

冬枯や新手負ふくるゝぬ鶯　春鴻
冬かれや雁のくりかへすの泉　存阿
冬かれや井の底も嬉しいく清水　季彦
冬かれや菜をはつかり泉る男　二川
焼畠も冬かれく畑の一しき　護物

寒さ

折くは梅の下さく寒さ哉　衣竹
筋かなあけるさむさや麦の中　巣也
竹焼くかすかし寒さの山の月　旧衣
寒さ口継馬にはけるゝ草鞋さ　真彦
久人は白のなか残さしぬ寒さかな　句光

冴

月のさすこれ桂の穴や寒き冴て　壺山
る済て牛盗人のゆく嬉さか　訓山

胼

消る夜や美しく手のゆかしくひ　一肖
うつ船の蒼ミにきえぬ町　護物
胼けれや仁王の前に胼をあらく　保吉
胼の手く職おかしけりあや胼　東
胼かくれ人針のこぼれり　嵐吹
胼の手やそむくしくふき離れる　夢南
胼やさそ居とまくる鶴手燭　護物

皹

いろいろや雪の草鞋の落し紙　春鴻
皹をするて以るし浪来の形　鷗里
いるなや身をからくしつる針仕　菜山

爐開

炉開や常にまさりて松の坊　童学
炉をあけて友にはじめし人や誰　鱗夢
炉開きぬや昔なりける叡の僧　五明
窓よりは山見てけふ炉開く日　如琴
炉開や庭もこれより梅の影　石芝

口切

口切や友をまつ葉の炭さくら　川上氏　不白
口切や此の口つきもあるき　吐月
ほるうえの口切ちかき茶摘小本　予英
口切や翠の句ひ一て条茶　冷水

巨燵

おもひをかえりそ蚤巨燵　柳几

冬構

佛檀のはしを菓子かざりで　禾木

鈴の音の高く見ゆく巨燵で　淼帆

松みしや巨燵をのけて構ふ衆　孤山

秋さへしらず世中りりの冬かまえ　木父

縁先千尺日八寸なりの冬構　昇貞

芦枯れく藪のうちも冬構　茅丸

冬かまへ山とまへ入れてきられ　車両

松かさよ松葉よ葺の下ゆ構　菊塢

冬籠

読みもあしぬ本集や冬ごもる　百誠

松々さも八二ぶくろ冬こもる　伊勢 鷺洲

冬の気ぶりそのうちつもれらて　其成

七くさの色ろぬ水屋や冬籠　衰丁

棚隅のよ日八虜さて冬籠　痩菊

埋火

埋火や母よりたくみもと　こう素

うしろゆや雁放される座敷の物　米友

埋火をくつれらりて出しけ　茶静

うつやあや雪落て鳴ても峰　太郎彦

火桶

有子のもうそめる火桶で　餘史

枝切する者かうよ火桶で　伊勢 虚舟

菓子をく側よらしきて火桶から　吾峰

火鉢

一ふしぎに火桶を出す家越かな　玉珂
おもしろう見ぬ火桶の扱ひかな　水直
いろいろの袖口よする火桶かな　みち彦
何となくむつまし嬉し火鉢かな　碩布
白雲に舟まかせ川宿の火桶かな　茶龍

甘炒栗

山伏の鼻つまし焼る甘炒栗　詠帰
おしけなや囲炉裏にまける甘炒栗　松杜
夜咄の声はめきしいろりかな　芳居
寂しさは家うち出よかよひかな　護物

榾

捨ひろふ千年株の榾木かな　昌作
榾くべて川する年のうつりかな　椿海
壁越しに見るもえかゝるや榾のもと　氷佳
小きやかに焚ふてもなし雪の榾　新賀
榾くべやふる鱼拾ふる白もちん　竹山

炭竈

炭竈やや人ゆえて投げさし　青蘿
すゝ竈や票くしくもおもひあれて　みち彦
炭竈の煙をさして戻る夜の静　雪雄
炭竈の煙のすみや雁もかよふ声　観海
すゝ竈やいつれ深草よりの煙　玉珂
村て炭折る舟のはしらくぞ　椿堂

湯婆

冬の夜をせめてハ花の旧も　魚眼

雨もよき夜のむかしくなしや炭　米彦

夜のうけやうつくしき寝すゝの布団　石芝

寒うせておりつくり背合せかゝる　杉長

さびしさや煙草の湯の身をはなれ　志き波

帋衣

比丘尼きや酒呑の紙もえんすれ　草夫

持の名もみゆるも老やえんはさく　護物

留守を中に着中小なくし羽衣　みち彦

年うくこ紙重ねとし老を着くり　定雄

こくしかむ見えしる見ぬれ紙子かな　女 くめ

帋衣き尤て紙ぬきうすれ紙父かな　玉河

蒲團

橘の実すゝきかゝえんくゝくつ紙り　護物

蒲蒸みて移るや小橘持紙もち　みち彦

手枕の鳴けり婦人なつふとんかな　百卿

あかき月の小ふみや膚蒲團　東一

すつかりとぬくもりまくのふとんかな　菊雄

黄檗の縁枝えたる蒲團かな　護物

冬をさへ夜のあらし布子かな　午心

小春もの雨もよろ紙衣ふとん　さち雄

おし込て寝くさし春すゝふとんかな　一宵

頭巾

[illegible]一夜すしこの菴かな　月居

ましてや頭巾かぶりの皮衣　文左

孝経をのせて出にし頭巾かな　ノ旦

人さくらはし頭巾の形なかし　夢南

ものいはぬ子に笑ひけり頭巾かな　痩菊

其身の雇はまえる頭巾かな　帆山

足袋

足袋はいて寐る夜ものうき夢見哉　蕪村

薄の紐をたぐれば[illegible]や雑の[illegible]　五明

[illegible]山茶くさ[illegible]　士朗

掾上[illegible]今の[illegible]日暮[illegible]　夢南

納豆

古[illegible]は[illegible]　蓼松

納豆汁かゝ嵐のいほりかな　月峯

納豆や五臣の相[illegible]京出　葛三

[illegible]身の納豆汁　百萊

新発意の[illegible]身に納豆汁　渓鴬

山伏の袖の[illegible]よ[illegible]汁　女[illegible]

山茶花

山茶花や一枝[illegible]いつの[illegible]　こち[illegible]

山茶花や縁に日のさすうれし先　旭路

山茶花や山家は風の[illegible]　[illegible]年 李宙

[illegible]の盞は[illegible]月夜哉　一昔

…日も辞ふさるけふ事終るゝ　一蕙

くされ縁き…ハ…のなれ　佛仙

かゝるもとし木のまゝや枇杷の花　ちち彦

枇杷の花さきしやぬれちちぬれちち　咲菊

降るさけくらく花のむ　蘭く

西月の…枇杷の花　國村

菜花

菜の花の十株も並ふ日南哉　若前

花も其計ハ梅ハぬ菜花哉　こちら号

菜の花の…さきこそ　東湖

…山の町　車両

蘆花

菜の花は…自剃　護物

…　厓全

千稲の…　甘谷

升…や…　東峨

孫しき年のまへや帰…　八朗

久…堰の前　花女 江川

冬柳

折…人…　景兆

…日ハ入…柳　布雪

…安き柳　鳥廻

…柳　二和

冬牡丹

折て伸しつ折ても散らぬ　律居

障子の影もうれしや冬牡丹　一扇

十月のむかしハきれいしきかんじ　双湖

雪よけや静な宿の冬牡丹　不芝

冬牡丹人ハちりさきし人のあと　箕山

八ツ手花

そのまゝ男はきゝやちるハツ手　東義

日くれや八ツ手かくれ水仙もと　禾木

盛りすぎて木折ハツ手かな　茶静

八ツ手咲やれくまるるのまや屋　一肖

水仙花

水仙にさやく雪ふきものかな　花刑

水仙めちりてさしさきつゝろ　翠喬

水仙に人も寒しや小紫さす　鶴志

水仙や人の昔をうつ床　豊女

水仙の花にまけたる薬ぞ散　石雞

寒菊

嗅ぎてはじめて寒菊折に這入る　希言

寒きくや霜のめぐる鳥もなく　五縄

寒菊の日かけまだ残りぬ白しさ　さち雄

寒菊や折らし鷄の日を偸む　雉啄

寒菊や鷄のよりし添のなる　子明

石蕗花

中に落葉ハ風ふくきハ清その残る　士朗

冬芝

すゝ切の口むきかゝるゝ冬籬のむ　棹歌

結立の清気さいしや清との芝　彼うき

石蕗咲や猿まもる芝のむら　美之

翌るんゑさんゑしや冬芝　杜菓

冬籠の日なたしたゝるる芝のむ　栄枝

ものいはぬ人は冬の芝すゝき　子明

枯芒

枯芒翁送る出す小松かな　みとし

こもりし折り芒もかれぬ　禾木

冬枯の月より月のかれ芦　奴湖

枯尾花

ゑ尾花をたをれてうけさす薄へ　季冬

たそかれて見かれ果るや枯尾花　逢拙

枯ねうつるゝ尾花むらこく業　東一

山路ふかくて雪の尾花枯みかゝる　耕雪

入れ尾花日の入方の陽まもり　呂律

枯荻

うれしくや浪よりふくき荻の声　暁臺

夜の荻荻ふく声も枯しとれ　長翠

荻の枝の袖に清ふ枯まかり　阜池

枯ても風もつ荻の中の蜀かな　禾木

枯菊

枯葛や棄て培うてさらし井戸　和夕

籬さらに寒き菊の枯枝かな　其[illegible]

枯草

菊売も売てさびしし小縄かな　千代

冬ひ皆の数うしなはぬ菊のかれる　維駒

かれぎくやとられの子供ちらり薄　護物

なを見ても露もつ萩の枯葉哉　騏道

枯葛や何をうらみてふきまくら　みち彦

萩すすきいくその花を枯うつり　乙二

崖れ菜に鹿の尾さゆる　普記

冬草

ふきよきゝけふ冬の小菜哉　守一

鳥に眠られぬ寒し冬の牀　詠帰

漣もさ波かくれぬかれくさ　奇井

冬ざれやあをはゑる蕎麦の畑　鳩居

枯芦

山かげや灯はくらき汐芦　行牛

みえし芦やかゝりし汐の乾く岸　石丸

枯芦をたづねつくして霜の先　三磨

かれ芦や田まはりの夜の耕地　呂律

狐なく畑田の枯芦うつけ哉　東寿

枯蓮

枯蓮を戦ぎしぐるや時の送る　みち彦

かれ蓮や鳥の旅寝か池の中　孤山

枯蓮の雨尽くしたりや寺の坊　芳居

麥蒔

麦まきや百まで生る皃ばかり　蕪村

蕎麦刈

もろや限りて麦まきまの紗なけり　白雄

麦蒔や北の家野の人ばかり　燕雨

かへわの代もつきゐや麦をまく　双湖

そを刈よ芝かられた滝のうへ　介立成

蕎麦刈や絡てまる鵜赤らんは　等緒

大根曳

笠黒し八旅人あらし大根引　其堂

船泊のさまはいぬ日なき大根引　杜葵

暮遠し大根はふさくちゝの門　禾木

望絡へまゝ子かも招よりや大根曳　梅渓

大根引やゝかゝ朝日のよきところ　淡水

蕪

枝ひしの鷹のうしろの痩蕪　[illegible]雄

枝まりや寺のうしろの蕪まつり　嗚鳶

枝くみまく旅日和やかぬ引　蒼虬

何つしへく新の月夜や蕪畑　志け里

百ちきき味ちき来ぬさかさ引　何丸

干菜

みの岳花かけ菜をとて志つかさよ　白雉

耳きまの呉かけ留や竹かし菜　春鴻

うき人の宿や干菜を嘆ひとり　其芳

かし菜汁留のしなハあかしかさ　太郎兵

葱

寺うちや葱引出しておくうしま　来耜

木葉

菊の香や庭にきれたる沓のそこ　目居
菊汁くや刈萱折りくへたる　井克
鳴子引頭白ふりや根深の汁　魚之波
落ちくしよくれぬ菊の白さかな　亀丈
十月の旅はいかなる木葉かな　故友
うきなさて濡枕へすゝめくかな　棹歌
ちる木葉起こんとしてはまた寝たり　五縄
老られぬ八木葉ふる寝ざめかな　為粱

落葉

来て見れば色のうつくし落葉の音　白部喜
你らすりくしはなや落葉かく　草仙
誰しらや落葉をもたる料理くさ　丑二

紅葉散

落葉あきむ宿や嬉しきものほしの竿　蛙羅
句去り馬の尾にはく落葉かな　女 左も世
清原の水のよどみにちるもみぢ　雲辰
ちる紅葉舞ひて流れし走り手　芳簫
ちるやもみぢ笠屋にあらぬ紅　石雞
落葉もいとぬ紅葉の雫かな　桃生
野夕の茶にそよそくちるもみぢ　恵と女

冬木立

かり笠の見る片輪かけや冬木立　茶陵
荒後の来て鹿はかれぬ冬木立　旧友

冬野

葉先さえて然もしらぬ冬の夜哉　丈枝

鹿のなく音も聞えぬ冬木立　草芝

冬木立小社の鳥居もしらず　梅言

枯てゆく芦茂くや冬野原　衰丁

痩馬の肩のやせて冬野かな　右雄

冬の野や片かけ行し古草鞋　古雲

水底の茶昨日雨にぬれし冬野かな　菊戯

枯野

亀の小竜ものなるや枯野原　蕪村

夜の山のありける冬野かな　至雄

人家を遠くはなれし枯野原　葭菊

狐の鳴くおそろし枯野かな　茶静

行く人の枯野かな　蒸布

くらしや湖の古人家　訓山

くらやみや馬の通りしあとも無　一草

枯野や入日のかくる二日月　竹岐

冬山

冬の山かくれ行く　嵐丈

枯ゆくや冬の山　梅関

冬の山　善野

冬の山　千枝

山　さよ女

冬田

ゑしらひ人ハきけれはつる　白養
冬の田に情かくしさハ影うつれ　芳竹
犬の子は千家に何そゝ冬田かな　春来
抜きたるはうちや冬田のおくひかな　護物

冬川

おてしくのむかふはかり冬川原　五明
ちさこしと東の端へうつる冬の川　まさ岐

水鳥

そこ鳥の淺さしむとさハる鴨　みさ
水鳥は蕭ようきもてもられの波　山二
水鳥がいさえて来して足まわり　活夕
水鳥やちから持のきゝつけ　草均

鴨

水鳥るゝ足よりもさらし葦のうけ　樂山
濡なから昼ねうつ一つや池の鴨　来鉅
番部屋のうちはさうきや鴨の声　芙九
尻さへて鴨入る造入戸口の物　乙二
脊戸ゝや栗売の情く放ち鴨　幸山
鴨なくや薪盗人の夕陰うく　川二

鴛鴦

おもひ羽のかさなるつ風の鴛　車蓋
きし鴛の嵐ひくゝ入日のなか　萬籟
鴛鴦やさてはうもくのもの露　くら也
あちしるを押あふ田の中の鴛　一肖

雁 鴨

鶯寒さの二羽はなれけり 讃物

鴈聲の鳴ころしよ霄の雲 乙二

雁ともの従はるもなき霞む 太郎彦

一行の畔持合ふて寒き日氣 雪斎

千鳥

春耳して千鳥の聲も未眠ぬ東そ みち斎

鵆のなくハ峰ゟ川ちどりかな 伯先

川千鳥流れの末やひらきけり 介立

其の声や眠ぬ夜を揺らして鳴千鳥 南鵠

飄ゝと聞るすゝむ夕千鳥 仙舟

梟

梟や竹に栄えて露の峠 蝶夢

寒の夜や能十夜を鳴あかす 春鴻

梟ハかしハ枯ての伴まつらく 冬斎

罪の声き良しゝ昼の梟ゟ声 竹児

梟のよしとゞめや向ふちぞう向 蕉雨

木兎

木兎乃身まも大寺の月日かな 乙二

年つくの字鉄て声をたてる声 宇竊

木兎や更行里ハ寝しづまる 茶静

とはくや会家さし夜の雲 未木

寒苦鳥

寒ぞ苦る声さえ昼ハ届かれぬかの 葛三

足ゟける木も亡しけり寒苦鳥 竹児

鷦鷯

山郡の木にかくれぬや昔鳥　菊後

冬のくれ枯木落葉に家ひろき昔かな　芳居

流の行方の根本へみそさゞゐ　乙二

一羽でも書ある庭へ八つ頃ぞみそさゞゐ　蓁亭

笹の家ゆかしき気鷦鷯　北元

なかれゆく声やしぐれの鷦鷯　朗光

みそさゞゐ出口の本檣枯にけり　一雨

冬雀

広戸にもおしむや山の冬すゞめ　亀丈

日暮れば梅に雀も来りけり　牧山

冬雁

冬木見して行ける家も鴈冬　みを長

手ぬぐひにむ家の雁　諭之

笛をきくあつるすかたの冬の雁　南井

雁音しくやみやこの日ぬくさ船處所　竹馬

年もくれやさらさらとする雁の声　久藏

冬鳥

薪とりし後もくれや冬の鳥　みち彦

出ぬて人なきを降りし田の鳥　三津人

田ハ静にくれて空さき静かな　鑪汀

冬の日や鴨も只に夕ぐれに　蘭々

朝風や冬の霜の静かなり　白度

冬鳰

冬の寒さの夜はもれ行きの鳰　白雄

冬の夜へ昼とも付のあかりかな　玉珂

稲塚や夕日寒く冬の縄　素建

世の中をわたりかねてや冬か縄　文貫

冬の縄人まかせにわたりけり　巴丘

一粒のこほれてなし鯨の跡　裛丁

一のもと二の汐冬の朝ほらけ　詠帰

鯨切るさハきに風ハ和らけり　杉枝

河豚

鰒さけて行の中夜されけり　白雄

彩市に河豚ねふる夕日ハ風もなし　吐月

ふく一ツ果て見れは夕やはるかな　乙二

鰒汁

鰒くふやうき世の事ハ忘れ勝　裛丁

刺身とも成けりかな鰒くらひ　こち彦

君か代の人並にふく付　篤老

鰒くふて生きても松の月夜かな　阜二

大津絵の鬼も歎くや鰒の鍋　東一

吸くらふ絵ハさゝねの嚥る角　旧友

杜父魚

杜父魚や飯固めしこ奥まさん　帆山

からふつの霙に凍けく夜明かな　一月

杜父魚ハ夕月さしぬいのちかな　讃物

海鼠

生海鼠のまた酒かんとする見るかな　春鴻

杜鵑

もとゐなくしたはまたかすかに啼ぐ　友国

笠の門へ投こんでゆくかひすかな　阜純

ゆふぐれや宮のうちをなく蕪かな　扇和

漕おまて月の木葉に翳しけり　麻交

ちるあをやむさきすゝゐる雪の杜鵑　保吉

石花散て浪にもなほのうちもさらで　士朗

月さむく行るもまつるかれに二日月　掉歌

世の中のしても波の乃蛸なれし　兆房

やまと杜鵑や芦が中も書もちて　栄枝

網代守

いはしろきる鼻のさきつゝ朝ぼらけ中　雨麦

おりふてゐのあをさうらえ代はゆしるかな　芳竹

いつまでも翳ある山をあらし渡る　東一

射ぬ弓のかゝしも静かに網代守　魯丈

ゆふされはあとうふうすき乞あまし　孤山

茶漬

ふし漬の去川をまた取く小舟かな　乙二

霧の奥をとあしくとおらしれなるを　玉河

とらほろけ茶漬に月はよのゆかめ　呉雄

あれしも霧のつくへをいさむし　護物

虫

夜寒川や矢のとゞむる蛛のうち　葉村

いのちおも犬ふ東奥のまくらかな　曽逸

わらやれ鶯[illegible]魚の鬼　一肖

霜[illegible]

霜[illegible]の霜[illegible]山　玉珂

霜月や首[illegible]山の皺　朧月

[illegible]月八南天の実の日和かな　左学

霜[illegible]や[illegible]山家　夢南

冬至

[illegible]小里かな　[illegible]表

刺[illegible]かな　南井

[illegible]冬至の門田かな　茶静

日の[illegible]三の[illegible]冬至かな　竹馬

[illegible]　[illegible]山

髪置

かる[illegible]やゝの[illegible]　左簾

髪置の[illegible]羽織　女 何[illegible]

神楽

[illegible]　万和

[illegible]神楽かな　菊程

[illegible]灯の[illegible]　女 年 岐山

[illegible]　美之

祭

[illegible]海て雪の[illegible]月夜かな　州大

[illegible]貴牛房や子[illegible]　み[illegible]

[illegible]　律山

子祭

子の餅の供へも遅よき妹かな　護物

きのふまで草葺ならぬのきば哉　輪之

くれなゐの草葺棹のした下もなし　孤山

草場にはまだ夜更めか自在の炉　護物

火焼

御火焼や見ぬは済ませる外の龍　一草

火焼の長くも臭や青金足衛　未木

寒さうに居る禰宜衆もせず火焼哉　雨鈴

空也忌

空也忌の手持無沙汰し鉢たたき　蒿三

空也忌やくらき方より鉢叩　空阿

空也忌は来ることもあし跡の麻の衣　碩之

皷

柳の葉落ちて鉢叩き来る　真栖

そちらから擂る木より鉢叩く　松亀

木杖の身は何處からも鉢たたき　伊勢　壷舟

役し人家に奴は生きるや鉢たたき　鵬翅

両つ折り切りのこりの家まちち鉢　護物

寒念佛

冬の夜やつれ/\落ちる寒念仏　鍛船

寒念仏指おてしたる増えゆく　方言時夜

ちくとぞ寒き夜を捨てて寒念佛　雉子康

木兎の耳ほしさに寒念佛　曲河

ぬれて来ても寒しと寒念仏　石芝

諦

ゆまりせんとそこら所照る月　こきく良

馬こしの涙こぼさよ秋の月　乙二

さくらと鼻呼て帰りく青き月　蓬山

秋さまへんで斎夜乃下るや秋の月　巣成

月のくの葉分けて[illegible]や此秋月　長翁

芝居見七

顔見世の幕に夜半のひゞしかな　蕪村

白いきくと悩ぎりきさの葱の味　孤山

見物の上に白いきさはやもち顔は紅　頭翁

薮入や豆[illegible]待つ雪を待　杭良

雪

雪の[illegible]宿の外　茶来

雪の[illegible]の朝や戸口　巴堂

ぐ[illegible]雪にしてそこそこ山の家　夜江

[illegible]やら家雪なきし家の佛　節志

雪ふりてそこに大るの[illegible]かな　みち良

雪國

ゆくあや[illegible]ぬ夫をまちる　月居

雪ぶや月とのりつるもこた帰りのは　夢南

それとなく[illegible]の雪や雪構　五貢

雪用意

しく[illegible]に籠の上雪の雪用意　東一

[illegible]にすみゝこよしたる雪用意　川二

見

雪ゆんで雪くる雪となりけり　屋島

夜雪

舟よせし馬くらはつして雪の中　乎雪

枯子なきよそへもたらす雪のおく　家鶏

行まよふ人をめくるの小雪かな　秀ヶ女

江の雪や翁と見ゆや夜の窓　宇洋

すみしきや二度目の雪の落けしき　九芳

積し戸に醒れとうて夜の雪　禾木

翌も又ふるとて猫や雪の舩　李峯

動りけ家倉さへうし夜の雪　女 茂木

雪吹

宿かせと刀なけ出す雪吹哉　蕪村

曙や……雪吹けり山　傳吾

志巻

篝の消る〻しまき雪しまき　巴浅

霰

みの虫の枝もふるまふあられかな　起石

垣の井は山はあれるあられかな　利根古

雪しまくふゝきも杖や車の音　玉光

枯芒しかし川面続や雨しまき　竹麦

雪もまたきし鶏なかて霰ふる　竹扇

消しるに霰の音のなかるなる　乙二

霰ふる加茂の泉けしきよこしまれ　嵐北

冬の水枯く音も霰のうち　杏月

久しくの家も屋しつきれなりけり　梅翁

氷

山松のしつく[illegible]の[illegible] 蕉雨

あらしくる年の氷るこそ[illegible] [illegible]翁

鮭の眼の[illegible]氷るや[illegible] 守三

みそさゝいや草橋の氷は赤し 雪三

芦の葉の[illegible]氷の夜明まて 観光

宿たつやみそれ[illegible]氷の面 草夫

拾ひ[illegible]一つの[illegible]や氷[illegible] 一丁

相[illegible]のさゝやき[illegible]氷 芋静

[illegible]畳の氷[illegible] 壷記

さむしさや[illegible]の氷[illegible] [illegible]菊

氷柱

氷柱[illegible]の軒 壷山

山里や月[illegible]松も[illegible] 芳之

[illegible]しの[illegible] 与し

氷柱[illegible]や家の様 亀夫

[illegible]の山家の煙出し 楓山

凍

旅人は草鞋の音し[illegible]の凍 みち義

凍る日や流れの中の魚の[illegible] 玉珂

いてる夜の水[illegible]の川 禾木

[illegible]凍る[illegible] 一[illegible]

草

雪車[illegible]出るつらさ[illegible] 菜兆

旅ゆくや門に並びし雪の数　竹音

雪空の花まちのちらちらかな　東雀

山町や春さむさに咲く梅の林　晋峰

雪車川や寂しさ知らぬ人往に遠し　聴雨

椿

椿ちるや椿の落ちるに星見る　白雄

見さらし旅人椿見て残る　保吉

酒うまき里に入日のかしましき　春鴻

月ともかけともらし椿かな　石足

冬梅

若鶏の日なたかまへる冬の梅　環阿

うつくしき軒端にさしし冬の梅　呉荷

山茶とはちらさぬもおしき冬の梅　草丸

挿花は貞に玉北むき冬の梅　玉光

寒菊

冬の梅やさしさ出しき庭の家　古樂

冬梅の二本立てさし隠者の香　篤志

冬の椿ハうちてるすの寒さかな　一貞

冬椿

茶の花ハ椿に日もおしき冬椿　乙二

人ならぬ花うつりや冬こゝち　雪雄

ちる一輪さくちるさて冬中椿　鶴山

冬入て一ツ咲かけし冬椿　湖文

ちる寒八重ちぬちらく冬椿　護物

鷹

宵の灯や古人見ける夜の鷹　春鴻

鷹据くや行くゝる背戸の山　知足

弓ひけて来らしく鷹の居ところ　輔之

川上へ打越しけり鮎の鷹　梵指

鷹狩

雉子川や鷹狩の何を見の影　白雄

鶺鴒に鷹[illegible]　山二

鷹匠の[illegible]山の月　篤老

将よくや[illegible]鷹の[illegible]時　文晁

むなしかりや一[illegible]鷹の[illegible]　護物

燧鳥

とみかへりし夜ハまきしもはぬる夜鳥　無説

山ちかく[illegible]や[illegible]め鳥　乙二

[illegible]ぬ[illegible]め鳥　扇暑

[illegible]月[illegible]ぬくめ鳥　祇白

[illegible]鷹の眼やさし　燧め鳥　枕生

鳥呼

鳥呼ひや水に流れし鷹の巾　春鴻

呼や[illegible]　諷山

鳥さかり[illegible]や鳥の[illegible]　一宵

鳥呼や草[illegible]氷[illegible]　蕉雨

落鳥

落く[illegible]や鷹[illegible]の鳥の[illegible]　春鳥

落くさし[illegible]風[illegible]　双朗

力草

をの声ハまぎれぬやちから草　石鍾

葉さくちからはみ力くさ　菊移

師走

日ハつきて海のむしはす哉　袁丁

うきものやしはすのやどの戸ざし　孤山

有明の鐘あまり入しはすかな　茶静

居並ぶや人のしはすを酒のつる　菁丸

何ちらぬ弱のてらもしはす哉　松國

川ひらき

拙気のかしこ酔さつ川ひらき　石芝

扨ゑさも羽織ま笠を川もとも　碩布

貞之下戸の御清ありさ　讃物

臘八

臘八や寒しほらしき時　大樗

臘八ぞ知らで旅する男かな　茶静

臘八や峯の月日の後ろさす　積立

まれる臘八の衣小袖哉　一背

俳名

俳名もかくて八なし江戸哉　暁臺

聞ハうそや雪のうつけ哉　柳几

俳名やまた鼻さちて仕舞哉　若九尼

松も哉まよふ波のうへ　夢桃

椰の葉むしむ人へや汲哉　護物

事始

[illegible] 千[illegible]

[illegible] 美作 梅人

[illegible] 烏旭

[illegible] 曲阿

[illegible]始 月一

寒の入

[illegible]寒の入 松兄

[illegible] [illegible]

寒の入雀の[illegible] 楽水

[illegible] 双湖

[illegible] 文[illegible]

寒の雨

大名の[illegible]寒の雨 玉[illegible]

[illegible]寒の雨 袁丁

[illegible]寒の雨 呂川

[illegible]寒の雨 亀夫

寒の月

寒月や[illegible]の宿[illegible] 乙二

[illegible] [illegible]

寒月[illegible] 喜山

[illegible]寒の月 晋峰

[illegible]の月[illegible] 尺城

寒食

[illegible] 吐日

乾鮭

ゆとり日ぐらへ日ぐら家も見えくひ　五明

ひ[illegible]の所も又中にしまへ菜喰　春鴻

つる鯉やうきて影うつる人の先　車蓋

乾鮭も沢水に浪に落る人[illegible]　士朗

きくりや乾鮭さつけ[illegible]の打　秀我

乾さけに松葉をさく家の隣　乙先

立春

年のうちに春の[illegible]かくすのかすみ　柳几

うつろふに来ハ春は立りけり青むし浪　士朗

松青く草坂の春の川　地山の年　俚言

年のうちに松ハ[illegible]しきも来る　素模

追儺

とし越の[illegible]ちつし　晩[illegible]汁　小ち亞

鬼を追ふ夜も度々の田[illegible]　葛三

[illegible]ひら[illegible]の人に比きて年の豆　玉光

掛賣

つる町や今はして来る掛乞　南井

二度まて来て白ちらぬ掛乞　巴人

[illegible]のは世すて[illegible]ぬや牛[illegible]　輪之

節季候

猿川に何に[illegible]ぬなし節季候　泉之

節季候や松おつきてお[illegible]すて　玉珂

節季候医者のものゝ人の[illegible]　孤山

[illegible]おゝ柏の[illegible]節季候　石芝

焼筆

焼木おくし花のさかりかな　みち彦

ことしもの名残を焼き筆の跡　梅渓

煤掃

煤はくや山寺の常菰の中　三津人

煤掃や川をくだりて町の家　興山

すゝはきて年くれはてし四隅のけしきかな　茶静

煤の家鴨一日去りてかへりけり　美とし

煤のちりや五反百まで燃の代　雉隠

餅搗

をしからぬ米とて餅の音　みち彦

餅つきや梅をたつねる声のする　梅泉

もち香や例のごとくの寺の坊　赤羊

衣配

この竹の香もそのまゝに餅かなの　まつ哉　吐月

万物をいたゞく人らうれしさや衣くばり　平角

さぬ母の漂母の信の深きかな　東皐

年市

年削る絶えぬ買人されの市　みち彦

来ぬや旅人も年の市　白養

都の草のさかり年の市　たし丸

年の市振る面を見て戻りけり　知鯨

年忘

くれし年の梅の枝や年の市　嵩川

何やらの山は霞かな　樵　鶯府

太竈のえぶ年木のやつかれ　竹児

年よ隠むはさらや青の杜若　和調

鶯の葉ろさくらん年木哉　年守

年用意

子ら家の洗濯干あやとし用意　みち彦

卯そうや帰一枝も年用意　根嶋

人らえて来るの家のとし用意　宇橋

年忘

年忘屠蘇の詩をとなへけりけん　擇良

うき恋了似しはるさや年忘　青蘿

年忘れ竹八風につ夜んけて　太柏

二夜とハ年よ隠のはなりけり年忘　月将

古暦

古暦十日の薬としたし小野　夢南

暦古し栄暦の巻にのりて　可磨

金子それの疾見さまに古暦　栄枝

年もあれ又秋女ありかす暦　柳美

春待

春待川やまた魚も寄るのかた　みち彦

春を待明よ乙きの古巣哉　蕉路

一ら浮く幸くとせぬ至きし　紫金

春ま川や菅のなきの妻の畔　石海

あさ人をとう菜で寄るも散つ子　玉光

来春

春のくるよ郎にも来　存義

年

戸口さへはきさしも新らしの暦　鳥口

来る年の役にもすゝむ笠の草　泠水

抱く年や夜さしさし若松の風　鴫國

行年のなに寝かしらぬ枕　杉廬

しかしまや深田にはまる鶴の秡　古岳

鶴も鳴て行年の人賀朴なる　遠江 九雲

行年のなれは新しき黄家ぞ　鹿阿

岡見

妻しく日をおそはしも岡見かな　葛三

隠しうらを走るゝ岡見かな　夢南

豊鶴よ岡見もとりをこはやかな　護物

年籠

何ものゝ行る音しけり年籠　如斯

眠りせし梅をもなにしほす年籠　梵狂

よし簀ん梅もちゝ流積もなし　竹児

歳暮

小窓のかけるなきもやゆるや年の暮　其彦

くまて行年や鈴のかかる隠　卓池

しのぶ兎も耳をそばてる年の暮　其白

くれてゆく里も[illegible]つし年の暮　可遊

獨活の[illegible]子もかきおくれ年　茶静

大年

大としや人の出てくるうしろ　白鳥

大年や[illegible]連ようさ法の[illegible]の連　古[illegible]

大晦日

小夜更て杵子さへしつやな晦日　詠帰

むつりや年の流まての海老の髭　一義

かいなの蔵ゟ来るそ年の宵　呉意

年夜

年の夜や業に付る杉菜　乙志

しのあやちの旅人出て歩行　鶴里

年の夜も知らぬ白子ゟ良猶去　痩菊

除夜

ゆりしや尽ぬきえ[illegible]除夜の梅　標良

杉ゟもや除夜の燃ゟ东もん　保吉

来ぬ[illegible]除東[illegible]　流山

尽すしくも[illegible]梅　誰物

追加

暁の梅その日を[illegible]　村濃

さくらやたくさの人押[illegible]　亀女

花よ葉のうけうさ[illegible]福寿草　少女 栖霞

天地の呼吸老川[illegible]梅の花　雨條

[illegible]まて[illegible]梅　鮭井

梅の日や松ハ[illegible]人の友　佳夕

霧ゟ葉[illegible]梅[illegible]　六合

春の元のもやハ[illegible]　新賀

[illegible]花[illegible]　雨休

五月雨や[illegible]　楓所

鹿の子の[illegible]　其壱

[illegible]五合の室や[illegible]　杜成

若清水[illegible]　六旨

[illegible]や[illegible]の雨　山花

酒[illegible]の[illegible]　一賀

世の中八味[illegible]の[illegible]　匠花　得我

[illegible]やまの[illegible]　再可

[illegible]　百里

[illegible]や[illegible]の[illegible]　佳續

虫の雨[illegible]　萬山

蓮の[illegible]月　雨休

[illegible]　村濃

[illegible]の[illegible]　六旨

泥亀を[illegible]　萬山

[illegible]笛や人の[illegible]　百里

[illegible]の[illegible]　得我

[illegible]の[illegible]　匠花　雨休

[illegible]　[illegible]十

白[illegible]　[illegible]

江戸本石町十軒店 萬笈堂英大助蔵版俳書目録

〇類題之部

俳諧發句五百題 春秋庵白雄房撰 小本二冊

同 新五百題 田喜庵護物撰 中本二冊

同 新々五百題 仝撰 全二冊

同 名所千題集 仝撰 全二冊

同 今人東風流 洞海舎凉谷撰 一貝庵一貝跋 全二冊

同 十万句集 仝撰 仝跋 全四冊

同 故人五百題 松露庵撰 小本一冊

同 續故人五百題 一貝庵一貝 全二冊

同　類聚[illegible]　中本二冊

同　今人五百題　八雲東[illegible]　小本二冊

[illegible]

同　類題　中本二冊

同　古今撰　[illegible]　全一冊

同　新類題　六合菴方旦編　全二冊

同　萬題集　[illegible]題砂字　八雲東濱校　全四冊

[illegible]

同　[illegible]叢集　[illegible]　小本四冊

俳諧日々の日　[illegible]大人編　全一冊

[illegible]笛集　錦舎[illegible]　中本二冊

今人發句集　禾木園校訂　全二冊

四季發句帳　全一冊

白[illegible]　艸丸大人撰　全一冊

○假名遣物

万葉用字格　春登上人撰　全一冊

對照假字格　長野美波留大人[illegible]　[illegible]

音便假字格　春登上人撰　小本一冊

○句集

嵐雪句集　全[illegible]冊
其角句集　全[illegible]冊
蓼太句集
吏登句集　全一冊
巣兆句集　全一冊
完来発句集　全三冊
梅翁宗因発句集　半本二冊
[illegible]無発句集
[illegible]句集
俳諧[illegible]発句集

[illegible]集
楓[illegible]　甲斐州九[illegible]　全一冊
蕉[illegible]句集　[illegible]　全一冊
護物七部集　小本二冊
[illegible]二七部集　全二冊
饒舌録　元木網大人著　全一冊
二吟未来記　全一冊
俳諧寐[illegible]　[illegible]秋庵白[illegible]
今[illegible]部集　冬[illegible]　[illegible]　全[illegible]冊
今人附合集　全[illegible]冊

芳草集 [illegible] 四編

芦のひかり [illegible] ○季寄之部 [illegible] 小本二冊

戀の栞 森雪庵北元著 中本二冊

俳諧手挑灯 一名俳諧[illegible] 全一冊

同 掌中小本 寸珍一冊

俳諧袖鏡 一枚摺

季寄便覧 [illegible] 横本一冊

[illegible] 小本一冊

[illegible]諧文集 [illegible] 全一冊

俳諧變躰一覽 表俳諧定式變体之圖 両面一枚摺

袖[illegible] [illegible]

俳諧礎 ○掌中[illegible] [illegible] 一冊

掌中五百題[illegible] 横本 全一冊

同 [illegible] 全一冊

同　芭蕉發句　附録　全一冊
同　[illegible]　全　冊
同　其角發句集初編　集廿[illegible]編
同　二編　集廿六編
同　三編　集廿七編
同　嵩山發句集初編　集廿八編
同　二編　集廿九編
同　乙由發句集　集[illegible]編
同　[illegible]發句集初編　集卅十一編
[illegible]　二編　集[illegible]十二編

[illegible]　初編　集卅二編
○新編俳[illegible]　編　集卅四編
[illegible]　三編　集卅五編
同　古今撰　三編　集卅六編
嗣追々出刻
俳諧一葉集　前編五冊　後編四冊
同　薄用[illegible]
續今人五百題
掌中歳之九[illegible]

芭蕉翁略傳　[illegible]　湖中[illegible]　全二冊

近世俳家[illegible]十家類題　[illegible]　全二冊

同　[illegible]　全二冊

續[illegible]　[illegible]嶺著　全二冊

類題[illegible]集雑之部　同輯　全二冊

諸國[illegible]集　[illegible]輯　全二冊

古今[illegible]白題　[illegible]之部　諸國追々出板仕候　全四冊

俳諧獨贅古　寸珍本　全二冊

[illegible]　全二冊

[illegible]　全二冊

[illegible]屋淺吉

王都

發行

書林

京都三条通[illegible]町　出雲寺文次郎

大坂心斎橋[illegible]町　河内屋喜兵衛

同　安堂寺町　秋田屋太右衛門

同　博労町　河内屋茂兵衛

江戸芝神明前　岡田屋嘉七

同　日本橋通二丁目　小林新兵衛

同　同　山城屋佐兵衛

同　通壹町　須原屋茂兵衛

同　淺[illegible]　須原屋伊八

同　本石町十軒店　英大助

小[illegible]　下谷御成道　英文[illegible]

藏板

一 不動尊　證峯

一 大聖寺　了静

一 赤円　了圓

一 御經　證遍

一 五百円　明覚

一 百五十円　一円九

一 二十文　一千五百文

一 四百円　木村

一 五十円　繁郎

一 三百円のお布施より　安田　當主

十月十五日

記

一 九百五十〇 [illegible]

一 五千〇 口銭

一 十九貫五百三十五文

一 廿五両 [illegible]

一 銀三十〇 [illegible]

一 九十〇 [illegible]

〆四百七十五両 [illegible]

三十両 [illegible]

五十両 [illegible]

十月十五日 [illegible]

一 七十〇 又〇 [illegible]

一 二千〇 [illegible]

[illegible]

二十 [illegible] 文

[illegible]